

第12期 第9回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和3年（2021年）9月10日（金）午後2時00分～午後4時00分
場 所 国立市役所3階 第4会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、内海委員、楠田委員、隈井委員、田中委員、十松委員、速水委員、山岸委員（委員は50音順）
事務局 黒澤生活環境部長、清水ごみ減量課長、河内清掃係主査、安波環境センター所長、岡田清掃係主事、新清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2020（令和2）年度実績）の行政による評価の（3）収集・運搬について事務局から説明した。

【山谷会長】①効率的な収集体制の推進について、ご意見をお願いします。全般的な評価としては、一部課題ありという方が多いでしょうか。

収集品目や収集頻度は家庭ごみの有料化に伴って見直し、頻度を落とした分は店頭回収を強化するということです。

【田中委員】ペットボトル等については1週間に1度の回収に戻してほしいという声を多く聞きます。

【速水委員】小さな集合住宅ではネットがあって、いつでも入れられるので便利です。

【十松委員】収集品目や収集頻度についてはそれほど大きな課題は感じないのですが、やはりEPRの推進というところがもう少し頑張れるのではないかと思います。

【内海委員】店頭回収の品目を増やすことや、ペットボトルのキャップを集めているところを増やすこととかは少し工夫ができそうかと感じました。

あと、個人的には雑紙の回収がもう少し増えるとうれしいとは思いますが。回数が少ないと、ごみとして出してもよいかなという誘惑が多いものかと思うので。

【隈井委員】ごみ集積場を見るとペットボトルが相当多いと感じます。回収ボックスがない自動販売機が結構ありますが、義務ではないのでしょうか。EPRの点からいえば、回収ボックスをきちんと整備するよう呼びかけることとかも必要なのではないかと感じます。

あと、ペットボトルの今後については、メーカーがペットボトルから紙パックに変えているものも結構あるようですが、プラスチックが減っても燃えるごみが増えてしまうのではないかという懸念を感じました。

【山谷会長】審議会の評価としては、収集頻度を削減して収集効率を改善する一方、エコショップ制度を創設して民間の回収ルートを整備してきたことは評価できますが、その民間のルートの利用が進んでいないということが見えてきたので、民間のルートの活用について、さらに広報に力を入れていただきたいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】②収集運搬による環境負荷の低減について、ご意見をお願いします。全般的な評価としては、順調という方が多いでしょうか。

【山岸委員】数値を見ても燃費が向上しているのは明らかなので評価できると思います。

【山谷会長】収集の頻度を減らしたことで、車からのCO₂の排出量も減るでしょうし、低公害車を早くから導入していることも評価できますよね。審議会の評価としては、戸別収集の対応により収集箇所が増加する中で、燃費の低減維持に努めていますが、収集ルートのさらなる効率化も引き続き検討していただきたいということではいかがでしょうか。

【山崎副委員長】低公害車の導入を2015年度以降、進めているということですが、これは増やしているという意味なのでしょうか。

【事務局】2001年度頃から低公害車を導入し始め、2015年度に全てを低公害車にし、それを今も続けています。

【山谷会長】③安全かつ安定的な収集体制の確保について、ご意見をお願いします。全般的な評価としては、一部課題ありという方が多いでしょうか。

【十松委員】事故の根絶を目指しているので、行政の評価をC評価にしているのかと思うのですが、令和元年度は11件あったのが、5件に減っていることは評価して書いたほうがよいかと思いました。

【隈井委員】令和元年度は急に事故が増えていたかと思います。割れたガラス製品で収集員が手を切るけがをしたというのは、きちんと危険物として出されていたのか、可燃ごみや不燃ごみの中に入っていたのかは分かりませんが、令和元年度より事故が減っていることは、審議会の評価として書いてもよいかと思います。

【楠田委員】やはり事故というのは起こしてはいけないということが大前提だと思います。1件でも起こると重大事故にもつながるかもしれないということは、残さないといけないかと思います。

【山谷会長】審議会の評価としては、収集業者の業務の安全性確保について、改めて行政として安全確保の方策を検討・検証する必要があるということではいかがでしょうか。

【山谷会長】④戸建住宅における収集方式の柔軟な対応について、ご意見をお願いします。全般的な評価としては、一部課題ありという方が多いでしょうか。

【隈井委員】令和元年度は集積所数が急増したのに対し、令和2年度は600件ちょっとの増加でとどまっていますが、その原因を分析し、5年、10年先を見て考えておかなければいけないと思います。令和2年4月の世帯数が3万8,358なのに対し、令和3年4月は3万8,825なので、新しい世帯は戸別収集になっているということなのでしょう。

【山谷会長】集積所数が増えることで、何か問題があるということでしょうか。

【隈井委員】集積所方式を維持するとのことですが、維持できているのかが疑問なので、なぜ増えているのかということが知りたいです。

【事務局】新しく戸建住宅を建てた方は、やはり以前からの集積所に出すのがなかなか難しく、戸別収集になるということが多いです。

【隈井委員】市としては、新しく入ってきた方が既存の集積所に出しにくければ、戸別収集をするという方向で考えているということでしょうか。

【事務局】そうですね、現実はそのようになっています。

【隈井委員】収集費用は変わらないのでしょうか。

【事務局】変わらないです。

【山崎副委員長】集積所の数が増えると、作業している方の労力は増え、事故にもつながるといことは予想できます。私の近隣でも住居の壁にごみが飛び散ったり、走りながら作業したりしているのを見ているので、今後も集積所数が増えるのであれば、早めに手立てをしたほうがよいと思います。

【隈井委員】なぜ新しく入ってきた方が集積所に出しにくいのかということ、まちの振興課や町内会と話して、できるだけそれが減るようにということを考えてほうがよいかと思いました。

【山谷会長】住民の間でごみ出しをめぐるトラブルが生じることもあるかと思いますが、審議会の評価としては、住民の意向を地域担当職員が十分にくみ上げて、きめ細かな対応をする一方、集積所数が増えることに伴い、収集業務の安全性を確保していただきたいということではいかがでしょうか。

【山谷会長】⑤ごみ出し困難者への支援の検討について、ご意見をお願いします。全般的な評価としては、順調という方と一部課題ありという方が多いでしょうか。

【十松委員】特別配慮について詳しく教えていただきたいのですが、件数が年々増えていて、今後もっと増えていくのではないかと思うので、地域の方やヘルパーが対応していけるのか、とても不安に思いました。

【事務局】特別配慮というのは、本人がごみを出すのが難しく、家族やヘルパーがごみを出す毎日では出せない場合に、ごみの分別はしていただいたうえで、収集日に関わらずバケツなどにごみを出してもらい、収集員は毎日バケツを見て、収集日のものを収集するというものになります。

【楠田委員】高齢者が増えていくことに、本当にうまく対応できるのだろうかという懸念があるので、そこは明確に対応できるようなサポート体制を確立していかなければならないと思います。

また、新型コロナウイルス感染症の自宅療養者も、ごみ出し困難者と言えるかもしれないと思ったので、少し心配になりました。

【山谷会長】特別配慮の届出件数を見ると急増していて、この先もっと増えていくことが予想されますので、審議会の評価としては、引き続き対象者のニーズを適格に受け止めて、サポート体制の充実に努めていただきたいということではいかがでしょうか。

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2020（令和2）年度実績）の行政による評価の（4）中間処理について事務局から説明した。

【山谷会長】①適正な中間処理と安定的な管理運営について、ご意見をお願いします。全般的な評価としては、順調という方が多いでしょうか。

【事務局】第4回の審議会で、楠田委員より、実績の指標を計画処理量に対するごみの投入量と燃焼炉の高温維持や安定的燃焼の実施状況に変更してはどうかという助言をいただいたのですが、報告をできていなかったため報告します。

クリーンセンター多摩川の令和元年度の計画処理量9万5,348トンに対し、搬入量の見込が9万1,410トンで95.9%、実績が9万2,664トンで97.2%とのことでした。また、燃焼炉の高温維持については、ダイオキシンが発生しないという800度以上を維持したとのことでした。

今後、指標を見直すかどうかは検討したいと思います。

【山谷会長】施設についてはなかなか評価しにくいとは思いますが、審議会の評価としては、引き続き安定的な管理運営に努めていただきたいということでいかがでしょうか。

【山谷会長】②再資源化の推進について、ご意見をお願いします。全般的な評価としては、順調という方が多いでしょうか。

行政による評価には「総資源化量・資源化率ともに増加傾向にあり」と書いてありますが、横ばいというところかと思います。全国的には減少傾向なので。評価できるところだと思います。

【内海委員】行政としては非常に努力をしているかと思うのですが、方向性が維持ということで、少し後ろ向きな感じがしたので、特に新たな再資源化の調査研究について、前向きな検討をしていただければと思います。ある自治体で、汚れた紙でも資源化しているのを見たことがあるのですが、もう少し紙ごみの資源化ができないでしょうか。

【山谷会長】審議会の評価としては、可燃ごみのうち、生ごみが一番多いですが、その次は紙が多く、その中に雑紙をはじめとして資源化できるものが半分近く含まれていると言われていまして、雑紙の再資源化の広報と、分別に取り組んでもらうための具体的なプログラムを強化していくということですよね。

また、新たな再資源化の調査研究については、一つは、プラスチック資源循環促進法の対応の具体的な準備を始めたところかと思いますが、容器包装プラスチック以外のプラスチックの容リ法ルートでの回収についての議論がこれから始まりそうなので、その辺の情報収集や調査ですね。そして、最大の品目である生ごみと、これから増えてくると思われる紙おむつの再資源化についても、情報収集や研究をしていただきたいということでいかがでしょうか。

【山谷会長】③中間処理施設の延命化について、ご意見をお願いします。全般的な評価としては、順調という方が多いでしょうか。

【隈井委員】延命化でいつまでもつかということをはっきり言えないと思いますが、いつかは駄目になるかと思うので、駄目になったときにどうするのかという、将来的な計画はあるのでしょうか。

【事務局】東京都と26市の課長の会議の中の情報でいいますと、2050年度までに、東京都内のごみが10%程度減るという見込みがありますので、その中で老朽化が進む施設とか統廃合ができるようなところがあればしていくという考え方があります。環境センターやクリーンセンター多摩川についても、自区内処理という大原則の中で、集約化も検証していくところになります。

【隈井委員】不確定なことはなかなか出せないかと思いますが、心配している方も結構いると思うので、出せる情報はできるだけ知らせていただければと思います。

【事務局】環境センターについてですが、昨年度改訂した国立市公共施設保全計画の中で、残りの耐用年数は28年になっています。建物については当面大規模な修理は要らないと考えているのですが、設備を新しいものに変えるのか、徐々に直していくのかは、今はまだ判断ができていないです。

また、国立市公共施設再編計画というものもあり、その中では令和9年度に大規模改修を行うということになっています。これについても、設備を新しいものに変えるのかといった話もありますので、今後、検討していくところになります。

【山谷会長】計画的にごみ処理施設の延命化の措置をしているということは確認できました。審議会の評価としては、今後も施設の適切な維持管理に努めていただきたいということでいかがでしょうか。

【山谷会長】④処理困難物、感染性廃棄物等の適正処理の促進について、ご意見を申し上げます。全般的な評価としては、順調という方が多いでしょうか。

【内海委員】国立市での事故はないということが確認できましたので、非常によかったと思います。

【隈井委員】令和元年度にクリーンセンター多摩川での事故が増えたことについて、稲城市や狛江市に話をすることは難しいとのことでしたが、令和2年度もあまり減っているとは思えないので、やはり話をすべきなのではないかと思いました。

【山岸委員】リチウムイオン電池というのは、電化製品に組み込まれているものが発火するというようなのでしょうか。

【事務局】そうですね、押し潰されると発火してしまいます。取り出せるものは有害ごみ、取り出せないものは小型家電製品として出してもらえば事故がないように処理できるのですが、可燃ごみや不燃ごみ、容器包装プラスチックに入れられてしまうと、パッカー車で押し潰されて火災につながるということは十分考えられます。

【山岸委員】一市民としては忘れてしまうときもあるかもしれないので、ときどき市報とかで周知をお願いします。

【山谷会長】審議会の評価としては、収集車両と環境センターの事故が0件だったことは評価したうえで、市として全国団体を通じて、メーカーにリチウムイオン電池を容易に取り出せるように設計してもらうという働きかけも行っていただきたいということでいかがでしょうか。

【山谷会長】⑤非常時における相互支援について、ご意見を申し上げます。全般的な評価としては、一部課題ありという方が多いでしょうか。

資料としていただいた災害廃棄物処理ハンドブックについて説明をお願いします。

【事務局】昨年度国立市災害廃棄物処理計画を策定したのですが、内容が多岐にわたり、分かりづらい内容になっていますので、市民に災害廃棄物について日頃から考えてもらうため、もう少し分かりやすい資料としてハンドブックを作成しました。今後、ホームページや窓口、あとは地域懇談会やわくわく塾で配布していければと思います。

【隈井委員】このハンドブックはまだ修正ができるのでしょうか。例えば「4. 地区集積所や仮置場は、どこにできるの？」に公園のイメージがあった方が、より直感的に分かりやすいかと思いました。

【事務局】まだ公表はしていないので、修正はできます。また、公表後も様々な情報を入手することがあるかと思うので、随時見直していきます。

【山岸委員】処理計画の長い文章を見たときは少し入りづらいと思ったのですが、ハンドブックだと分かりやすいので、すごくよいと思いました。

【山谷会長】地区集積場にはこういう公園などがあるという例示は本計画には入っていますよね。本計画はホームページで見られるので、詳しくは本計画に記載されていると書けば、うまくできるのではないかと思います。

【十松委員】次の段階でよいとは思いますが、ハンドブックの外国語版は必要だと思います。

【山谷会長】非常時における相互支援については、災害廃棄物処理計画にかなり充実した内容で記載していることは評価したうえで、やはり市民に分かりやすく情報を伝達するということが重要だと思います。そして、実際に発災した後、文章で読んだことがそのまますぐ実行できるとは限らないので、訓練が大事だと思います。

また、相互支援については、支援を受けるだけでなく、やはり被災地に出向いてサポートをすることで、初めて支援も受けられるということではないかと思しますので、審議会の評価としては、災害を想定した訓練とか、情報交換、被災地の視察とか支援をして、実務的な経験、知見を蓄積していただきたいということではないでしょうか。

2. その他

(1) 次回以降の日程について

第10回は令和3年10月18日（月）14時から行うこととし、第11回は令和3年11月30日（火）14時から行うこととした。

— 了 —